

「未来の食品産業を考える」の概要

開催日 平成 27 年 2 月 6 日 (金)

14 : 00~17:30

【趣旨】

今回の「つながる会議」は、「未来」をテーマとして、未来の食品産業を担う学生と食品事業者のフレッシュマンにご参集いただき、未来の食品産業に関して意見交換を実施いたしました。今の若者達が考える未来の食の世界の姿やそのために今やるべきことを忌憚のない意見交換をし、各自のスキルアップを目指してもらいたいと考えます。

【議事】

1. FCP 活動について

農林水産省企画課食品企業行動室 田邊課長補佐より資料 3 について説明

2. 講演「すべての人においしい笑顔を。ピクトグラムによる食材コミュニケーションの事例から」  
特定非営利活動法人インターナショナル 代表理事菊池信孝氏より資料 4 について説明

3. グループディスカッション 「未来の食品産業を考える」

ファシリテーター 株式会社 4 CYCLE 田井中慎氏

4. 参加者 食品関係企業の入社 5 年目以内の方 30 名 学生 30 名

<主な意見>

論点 1) 未来の食の世界で、

- ①. ここは変わらなと思うこと
  - ②. ここは変わらないと思うこと
  - ③. ここは変えたいと思うこと
  - ④. ここはどうでも良いかなあと思うこと
- それぞれについて考えて下さい。

① 未来の食の世界でここは変わらなと思うこと

- 1 班 「料理」が趣味となる。簡単に作れるものが増える。
- 2 班 食べる人食べない人の二極化
- 3 班 食の IT 化、3D プリンター (最近 IT の進化してるので、原料を入れるだけで料理が簡単にできる等、消費者の意識が変わる。世界中どこへでも食が送れるようになる。)
- 4 班 機能性食品・個別のニーズに対応した食品  
(今後急速に進んでいくと思う。新しいものが出てくる。また、周年供給ニーズに対応)
- 5 班 おいしいものを追求するか二極化する
- 6 班 ニーズの多様化 賞味期限の延長 (宇宙食等)
- 7 班 消費者の多様化による売り方の変化 (表示、販売方法、分類方法) (日本人人口が減っていく中、日本へ在住する外国人の方が増えてくるので、求められてくる食材が変わってくる。売り方は食材もインターネット通販等が増えてくる)
- 8 班 科学技術の発展 (作る環境、モノが変わる。スピード)
- 9 班 多様化するニーズ
- 10 班 食生活 (虫食等主食の変化や高栄養バランス食が増えてくる。美味しいものより栄養に重

点。美味しいものを食べるのは趣味に変わってくる)

**② 未来の食の世界でここは変わらないと思うこと**

- 1班 日本人の好みは大きく変わらない。(油食材や色)
- 2班 安全性
- 3班 日本人として食へのこだわり
- 4班 輸入食品の依存。(日本の農業は輸入と競うよりも特殊なものを作っていく必要がある。)
- 5班 摂食すること
- 6班 便利さの追求
- 7班 食の安全への概念・自分で調理したい欲求(家庭の味)
- 8班 国ごと地域ごとに好む味。(特有のもの)
- 9班 品質重視、食への欲求
- 10班 嗜好品

**③ 未来の食の世界でここは変えたいと思うこと**

- 1班 マイノリティ文化が廃れていくのを食い止めていきたい。
- 2班 食育による消費者への意識向上(消費者へ向けて小さい頃から食べれる食べられないの基準を教育し、食に対する責任を自分達で持つ)
- 3班 食に対する意識
- 4班 食への関心・理解を高めたい
- 5班 消費者の意識(異物混入等)
- 6班 ロスの低減
- 7班 食への安心に対する考え方
- 8班 労働時間を短くしたい
- 9班 消費者の知識・意識
- 10班 食品表示を簡単に

**④ 未来の食の世界でここはどうでもいいかなぁと思うこと**

- 1班 規格化(不揃いな形の野菜も許容しても良いのでは?)
- 2班 食文化
- 3班 形
- 4班 細かすぎる認証・表示制度
- 5班 流行
- 6班 海外からの食文化の流入(食文化の多様化)
- 7班 過剰な情報(表示)
- 8班 味(生きるために食べるという視点で考えれば虫も食べないといけない)
- 9班 味の好みへの偏見、悪意のない異物混入
- 10班 見た目(野菜等)

論点2) 論点1①~③は、誰もが興味があつたり考えたりすることだが、論点1④どうでも良いことは考える人が少ないので、そこにチャンスや何かがある。本日は、食の世界で皆さんの考えるどうでも良いと思うことを「どうでも良くなる」にはどうしたらよいか?を考える。それはどんな企業行ったらいいか?この世に無いなら起業した方が良いのか?

- 1班 野菜の規格外を規格化(五角形の柿)。変な形の野菜に珍しさを見出す。(発想の転換をする)
- 2班 給食等で教育。楽しむ食イベントプロデュース。虫で和食を創る。
- 3班 栄養、味の付加価値を伝える企業が増えればいい。きちんと品質の分析を行ってアピールする。見た目は悪いが同じ食品なんだから、そこをアピールする。
- 4班 表示制度については、消費者が見てなにが書いてあるかわからないのではないかと。色別等一目瞭然の表示が必要。学校教育の中でも学習することが必要。認証制度についても、消費者がわからないことがどうでもいい原因。例えば高齢者にはこれが推奨という認証に切り替えた方がいい。特保のマークのようなキャラクター等あればわかりやすい。
- 5班 メディアの情報が言い放しではなく議論が必要。議論した内容は生活に定着すると考える。食べ物ブーム流行等で商品の情報知ることも重要な要素。
- 6班 日本のおいしいものを技術とともに輸出。日本食は美味しいし技術も高レベルなので、宗教によって食べられない人であっても同じような味、同じ料理を提供できるような食を作る。日本の美味しいものをアピールしていくことが必要。
- 7班 適切な情報を適切に伝えることが大切。健康・宗教・栄養表示等全部の情報を載せるのは不可能。消費者が知識不足と考える。消費者の知識の底上げを図って、過剰な情報をより少なく適切に伝えることができるようにレベルを上げる。
- 8班 楽しみながら食べることが大切。(食べる相手、雰囲気、環境)。目から入ってくる要素で味は変わってくる、美味しく感じるので、舌で感じる味以外の要素で味を提供できるような起業ができればいい。
- 9班 味の好みを尊重する。(虫食への偏見→栄養価や機能性の訴求→見た目を考える→希少性)
- 10班 見た目で判別できない情報を包装以外で伝える→現物で分かる表示→世界的に標準化する企業を起業する。見た目で判別できない情報として遺伝子組換え食品があるが、醤油等大豆食品に遺伝子組み替えで無いと表示はあるが見ない人もいる。例えば「この色に発色している食品はこの遺伝子組み換えです」と情報発信できればわかりやすい。

#### つながる会議終了後のアンケート <一部の意見>

1 「FCP活動について」活動内容を聞いて、考えた事感じた事を記入してください。

○FCPの活動を通じて産学官民のつながりを強くする事の必要性を再認識できました。企業として、情報提供・発信の在り方やコンプライアンス体制の充実などに向けて更に取り組んでいき、お客様から信頼されるように活動する所存です。

- 異物混入の事件を発端に、今現在でも多くの消費者が食品に対する不安を抱えている中で、食品会社として具体的にどのような対策を立てていくべきか、難しい課題だと思っております。FCPの方針である「食の見える化」のため作成された「協同の着眼点」は、食品に携わる様々な方たちの意見を取り入れて作られているとのことですので、可能なものから始めていきたいと考えております。どの項目においてもコミュニケーションが大切とお話を聞き、日々なんとなく感じておりましたが改めて、コミュニケーションを大切にしていこうと思いました。
- 協働の着眼点は、消費者や社外はもちろんのこと、社内においても暗黙のルールが明確化できるため、コミュニケーションとして広く普及することで様々な事例において迅速な対応に繋がると思った。

## 2 基調講演「すべての人においしい笑顔を」活動内容を聞いて、考えた事や参考にしようと思ったこと記入してください。

- 仕事では、食品の表示も何度も見っていますが、文字で表記されていることに違和感はありませんでした。しかし、本日お話を聞いて、改めて考えると、日本語が読めない人や文字が読みにくい方たちにとっては意味のないものになってしまうのだとわかりました。仕事においても、現在の状態が正しいと思うだけでなく、様々な立場から考えることで、よりお客様が安心して利用できる環境を整えていきたいと感じました。
- 商品パッケージにおけるお客様への情報提供について、ピクトグラムやアプリといったツールを用いたやり方の可能性が感じられました。商品の限られた表示面積の中で、お客様が望む情報と、我々が伝えたい情報が効果的に伝わるよう、今後も改善に努めます。
- 「グローバル化」というと「輸出」というイメージがありましたが、講演を拝聴して国内におけるグローバル化の意識の大切さに気が付きました。その上で食品における言語、宗教の壁を超えるべく様々な取組を知ることができ、食品の表示を仕事にしている身としてとても勉強になりました。ピクトグラム、ITによる表示技術など興味深いツールを紹介して頂いたので、今後も最新の情報を取り入れ、社内共有して参ります。

## 3 ディスカッションについて 他参加者の意見を聞いて、考えた事や参考にしようと思ったことを記入してください。

- 社会人の方だけでなく、学生さんも多く参加されていて、今後変えていきたいことなど聞いていると、同じような考えは持っていますが、普段の仕事では意識できていないことも多いと実感しました。改めて、初心を忘れずに仕事に取り組んでいこうと思いました。グループには外国人留学生の方もいらっしゃり、中国では日本食ではなく日本のカレーが流行っているなど勉強になるお話も多く聞けました。
- 様々な事業者や大学生といった他の立ち位置の方と情報交換することで、普段の業務で気づけなかった課題に気づかされ、またその課題を解決するヒントを得る事が出来ました。
- 同じ題材でも出てくる意見は様々であり、今後、固定概念にとらわれる事なく、発想を自由に持ち、視野を広げていきたいと思いました。